

安全保障関連法案への抗議行動をする若者のグループ「SEALDs（シールズ）」の主張について、自民党の武藤貴也衆院議員(36)＝写真＝がツイッターで「戦争に行きたくない」という極端な利己的考え」とつづき、波紋が広がっている。インターネット上で「喜んで命を投げ出す人間になれということか」と批判が続出。識者は「法案への理解が広がらず焦っているのだろうが、こっぴどい発言で、ますます『法案を通したら危ない』と考える人が増えるのではないか」と話す。

シールズのメンバーは主に10代から20代前半の学生。国会前でラップ調のリズムに乗って

## 「戦争行きたくない」は利己的

自民・武藤氏 ネットで若者団体批判



「民主主義って何だ」「立憲主義って何だ」といったコールをするなど、若者が参加しやすいスタイルが注目され、各地で呼応する動きも出ている。

滋賀4区選出で2期目の武藤氏は、法案を審議した衆院平和安全法制特別委員会の委員。報道圧力発言が出て批判を受けた6月25日の自民党若手議員の勉強会に出席していた。7月30日にツイッターで(シールズの主張は)『だつて戦争に行きたくないじゃない』という自分中心、極端な利己的考えに基づく。利己的個人主義がここまでまん延したのは戦後教育のせいだろうと思うが、非常に残念だ』と発信した。

これに対し「若者が自分から

戦争に参加したいと思うようになる教育が、自民党の理想ってことだよな」といった批判のツイートを相次いだ。

武藤氏はツイッターで「若者に戦場に行ってほしいなど思ったことはない」と反論。今月2日にはフェイスブックに「世界中が助け合って平和を構築しよう」と努力している中に参加することは、もはや日本に課せられた義務であり、正義の要請だ』との見解を載せた。

シールズを中心メンバーで明治学院大4年の奥田愛基さん(23)は「私たちは平和主義の下で誰も戦争に行かせたくない」と主張していて、利己主義とは違うのだが」と首をひねった。